

平成30年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	永井隆広
	全体計画						経費区分		-		内線	3334
事務事業名	4110 健康診査事業											
所 属	100600 健康福祉部・健康づくり課											
施 策	01010100 健康づくりの充実											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	040102 衛生費・保健衛生費・予防費										
	事業	040000 健康診査事業										
事業目的						事業概要・効果						
後期高齢者健診、各種がん検診等を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努める。						後期高齢者健診、各種がん検診等を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努める。 ・後期高齢者健診：75歳以上の市民に対し、個別・集団で実施。 ・各種がん検診：対象年齢の市民に対し主に集団で実施 ・乳がん超音波検診や肺がんCT検診を導入するなど、精度の高い検診を行うことにより、早期発見、早期治療に繋げることができる。 ・市民が受診しやすいよう、胃検診・大腸がん検診は地域を巡回して実施している。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
後期高齢者健診の実施 がん検診：がん発見者数 胃5人、大腸9人、乳房2人、マンモグラフィ2人、肺2人、前立腺4人	後期高齢者健診の実施 がん検診：がん発見者数 胃3人、大腸11人、乳房2人、マンモグラフィ2人、肺3人、前立腺5人
平成29年度 実績	平成30年度 予定
後期高齢者健診の実施 がん検診：がん発見者数 胃0人、大腸11人、乳房0人、マンモグラフィ4人、肺2人、前立腺7人	後期高齢者健診の実施 各種がん検診の実施 胃内視鏡検診の実施
平成31年度 予定	平成32年度 予定
後期高齢者健診の実施	後期高齢者健診の実施

指標名	胃がん検診の受診率				
算式	胃がん検診受診者数÷胃がん検診受診対象者×100				単位 %
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	40	40	40	40
	実績	7.8	4.7		
指標選定の理由	死亡原因の1位であるがんの早期発見のため検診率の向上を図る必要がある				
最終年度目標の根拠	国の目標値である40%とする				
指標名	大腸がん検診の受診率				
算式	大腸がん検診受診者数÷大腸がん検診受診対象者×100				単位 %
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	40	40	40	40
	実績	17.2	10.8		
指標選定の理由	死亡原因の1位であるがんの早期発見のため検診率の向上を図る必要がある				
最終年度目標の根拠	国の目標値である40%とする				
指標名	肺がん検診の受診率				
算式	肺がん検診受診者数÷肺がん検診受診対象者×100				単位 %
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標	40	40	40	40
	実績	15	9.8		
指標選定の理由	死亡原因の1位であるがんの早期発見のため検診率の向上を図る必要がある				
最終年度目標の根拠	国の目標値である40%とする				

事業費

(単位：千円)

		平成29年度 決 算	平成30年度 予 算
事業費		100,417	116,276
特定財源	国庫支出金	262	137
	都道府県支出金	3,168	3,670
	地方債	0	0
	その他	5,637	30,154
一般財源		91,350	82,315
人員数(人)	正規職員	0.8	0.7
	嘱託職員	0.3	0.2
	臨時職員	0.5	0.2
人員コスト	正規職員	5,719.2	5,004.3
	嘱託職員	829.8	553.2
	臨時職員	589.5	235.8
	計	7,138.5	5,793.3
市民一人当たりの経費		2.1	2.3
総額		107,555.5	122,069.3

(単位：千円)

平成29年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	873	消耗品費105、食糧費5、印刷製本費763
13節 委託費	85,424	電算委託料1,083、その他委託料84,341
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	6,911	負担金566、補助金6,345
その他	7,209	賃金590、旅費3、役務費3,349、使用料及び賃借料698ほか

(単位：千円)

平成30年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	1,106	消耗品費140、食糧費9、印刷製本957
13節 委託費	98,758	電算委託料4,218、その他委託料94,540
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	7,177	負担金577、補助金6,600
その他	9,235	旅費3、役務費4,459ほか

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	がん早期発見のために定期的ながん検診を受け、重症化を防ぎ、合わせて医療費の削減をするためにも必要。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	健診により、精密検査が必要となり、がん発見された方がいる。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	今年度から胃がん内視鏡健診を実施。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

胃がん内視鏡健診実施に向け体制を整えたことから、円滑な事業実施に努める必要がある。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）	次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>胃がん内視鏡検診開始に伴い、胃がんX線検診と併せて実施している大腸がん検診の実施体制について検討が必要となる。がん検診の新規受診者拡大のため、現受診者の分析を行ない有効な勧奨方法を考える。</p>		<p>胃がん内視鏡検診の実施状況を検証し、必要な改善を検討するとともに、他の検診についても実施方法、勧奨方法を検討する。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	